

【計画】5-5 生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)適応策の検討

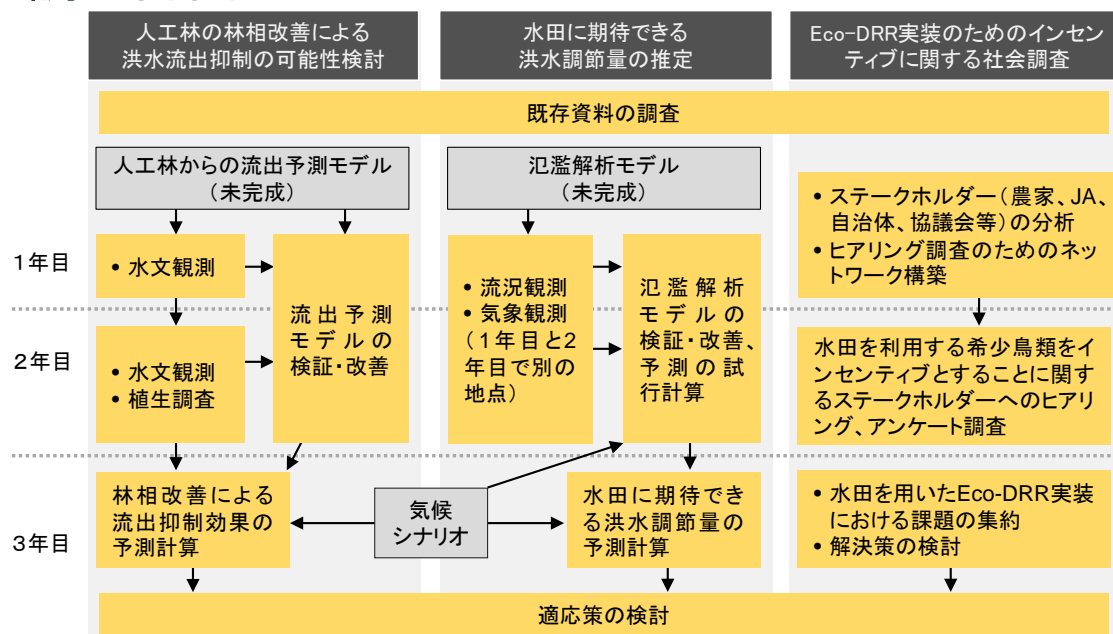
【分野: 自然生態系、自然災害、農業、対象地域: 徳島県(中国四国地域全域)】

地域適応コンソーシアム
中国四国地域事業

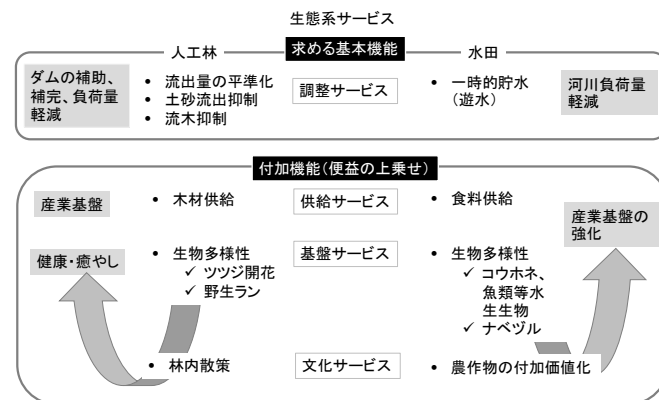
■ 目的

- 気候変動に伴う洪水リスクの増大が懸念される中、生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)への関心が高まりつつある。
- 気候変動に対する適応策のひとつとして考えられるEco-DRRの社会実装について検討するため、徳島県をモデルとして、人工林の林相改善※による流出抑制および窪地地形における水田貯水の効果を予測するとともに、大型希少鳥類をインセンティブとしたEco-DRR適応策を地域に実装するための方策を検討する。

■ 調査計画



気候変動に伴う豪雨出水適応としてのEco-DRR 基本的考え方



(徳島大学作成)

※林相改善: 森林の多面的機能を高めるため、森林を構成する樹木の構成を改良すること

■ 実施体制

(株)地域計画建築研究所
(アルパック)

徳島大学
環境防災研究センター

- Eco-DRR実装に関する社会調査
- 各種補助、とりまとめ

- 人工林の林相改善による流出抑制効果の予測
- 水田に期待できる貯水量の推定、内水氾濫への対応可能性検討
- Eco-DRR実装のためのインセンティブ検討